

投 稿 規 定

投 稿 資 格：投稿者は、本院職員及び連絡会の認める者とする。

投稿の種類・内容：本誌には原則として、原著（他雑誌未掲載のもの）、短報、CPCの記録、学会発表、院内研究の業績及び統計・経理を掲載する。用語は、和文または英文とする。

投 稿 の 仕 方：原稿1部とコピー1部（図表を含めて）を提出する。紙の原稿とともに、現行の内容を記録したMicrosoft Office Word, Excel 又は PowerPoint のファイルを提出すること。

執 筆 要 領：原稿の各ページに通し番号を付し、1枚目に和文表題、英文表題、著者名、所属、キーワード、1ページ文字数を、2枚目に和文要旨を記載し、3枚目から本文、参考文献を順次記載し、図表・写真を別に添付する。和文の句読点は「、。」に統一する。

（原著論文）

①原 稿：原則として8000字以内、図表10枚以内とする。原稿はA4版で作成する。

②表題、著者名、所属：和文表題には、英文表記も併記することが望ましい。

所属、氏名の記載例 磐田市立総合病院内科¹⁾、同外科²⁾、浜松医科大学第1外科³⁾

寺田 ○○¹⁾ 古谷 ○○¹⁾ 北村 ○○²⁾ 鈴木 ○○²⁾

吉田 ○○³⁾

③キーワード：日本語または英語で3語以内。

④要 旨：英文（200語以内）が望ましい。英文要旨のタイトルはAbstractとする。和文の場合は400字以内。

⑤本 文：原著では、「はじめに、対象と方法、結果、考察、結語」、症例報告は、「はじめに、症例、考察、結語」の見出しをつける。

⑥参考文献：「参考文献」の記載は引用順とし、本文中の引用箇所順次に右肩番号を付すこと。

例：1) 2,3) 1～5)

著者名は3名まで記載し、4名以降は「他」、「et al」とする。引用文献は20前後とする。

〈雑誌の場合〉

文献番号) 著者名：論文表題、雑誌名（略称で）巻数：初頁～終頁、発行年（西暦）。

例1) Burk JS, Butler JJ: Malignant lymphoma with a high content of epithelioid histiocytes(Lennert's lymphoma). Am J Clin Pathol 66: 1-9, 1976.

例2) 佐藤久芳、野水 整、二瓶光博、他：消化管平滑筋芽細胞腫の2例
一本邦報告218例の検討－. 日臨外会誌48: 2036-2040, 1985.

〈単行本の場合〉

文献番号) 著者名：論文（または章）表題、書籍名、巻（又は版数）、出版社名、発行地、初頁～終頁、発行年（西暦）

例3) McCaugh WTE, Kannerstein M, Churg J, et al: Tumors and pseudotumors of the serous membranes. Atlas of Tumor Pathology, 2nd series, Armed Forces Institute of Pathology, Washington DC, 20-72, 1985.

例4) 杉村 隆：分化異常としての癌細胞の理解・癌（東京大学医科学研究所学友会編）、文光堂、東京、17-32, 1975.

⑦図表とその表題：

図表・写真は原則としてモノクローム（白黒）とし、図○、表○として一連番号を付け、各々にタイトル（必要なら説明文も）を付ける。写真は手札型（13cm×9cm）の大きさにプリントしてデジタルデータとともに提出する。

- そ の 他：
- ① 原稿の採否ならびに掲載順序は、連絡会が決定する。各部署のレビューアーを連絡会が指名する。
 - ② 校正は原則として著者が行い、著者校正は1回とする。なお、連絡会が最終の査読と校正を行う。
 - ③ 原著の著者には別刷を20部まで提供する。それを超える部数を希望する場合は、50部単位で連絡会を通じ有料で印刷業者に依頼できる。
 - ④ 業績、統計資料は発行前年度のものに限る。
 - ⑤ 原稿は返却されない。

その他詳細は、連絡会にお問い合わせください。

2025年4月 磐田市立総合病院 病院誌連絡会